
僕に聞こえない声

ことわりめぐむ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕に聞こえない声

【コード】

N3416U

【作者名】

ことわりめぐむ

【あらすじ】

妻が病気で入院中に知ってしまった気味の悪い事実。

私の娘が食事をしなくなったのは十日前のことだった。

「だって悲鳴が聞こえるものかわいそうじゃない？」

それをみて息子も食事をしなくなった。

「だって悲鳴が聞こえるんだものかわいそうじゃない？」

理由は娘と同じ事だった。

声が聞こえるわけではない。僕の耳にはなにも聞こえてこないのだから、いや聞こえるにしても生野菜や生け作りのまだ命がある食べ物だけのはずだ。

けれどもただの好き嫌いなのだらうとは思えない。

それならばまだ、よかった。

「だって声が聞こえてしょうがないもの」

五日も食事らしい食事は全くせずに生活してきた彼女はもちろんのこと次第にやせていった。

ただ娘のマネをしていた息子は空腹に耐えられず、夜中に盗み食いをしていたところを僕に見つかり健康体を継続していた。これは父親としては安心だが自分の意志で物事が考えられないなどと言う所は情けないと頭を抱えた。

娘が喰わんなどいいだした五日前。その二日前に僕の妻、つまり彼女の母親が肺炎で入院をした事意外はなにもここ数年変わったことはない。

原因はそれだろうか？

確かに、たかが肺炎で七日も入院しているのは心配だ。

だが、娘もちゃんと分かっていると思う。

「何で食事をしたくないんだ？」

「悲鳴が聞こえて、かわいそうだから」

質問をまちがえた。

「なんで声が聞こえるんだ？」

「知らないわよ」

このままでは栄養失調になって死んでしまうという医者言葉に点滴を打ったせいとか、だるそうに僕の質問に答える。

「知らないって言われても困るだろう。いつからなんだ」

「五日前。突然食べてたリンゴが……」

思い出して気分が悪そうに言った。咀嚼されている悲鳴はどんなものだろうか、きつと聞いたことのないようなひどく気分の悪い音だろう。僕も想像して気分が悪くなった。

「母親として知っておくべきかと思って言いに来たけど、どう思う」

娘の命に関わることだと思って妻に娘の言うことや状態を報告した。すると彼女は驚くこともせずこういった。

「もうそんな年頃なのね」

「どう言った意味なのだろうか？」

「男の人には判らないかもしれないけれど女の子は食べ物がある年頃になったら聞こえるようになるのよ。お料理の上手な人はその声を出せないぐらい食べ物をつまぐ調理できる人なの。私もそのために一生懸命だった」

「じゃあ君も声が聞こえるのかい？」

「ええ。もちろんよ」

そういった彼女の笑顔に僕は背中に汗を感じた。

それから数日後、病院から妻が戻った。

「まだ声はするかしら？」

「できあがった料理を娘の前に出して言う」

「何にも聞こえない」

皿からなにも聞こえないのを知ると安心したようで娘はそれを食べ始めた。ひとまずは安心だ。

だが、娘のおかしな言動とその原理は判ったもの、僕からへの妻への不信感は膨らんでいった。

なぜ、声なんかでる食べ物調理できるんだ。幼い娘は声を聞いて病気になった。けれども妻は声を聞いてその悲鳴に包丁を入れている。慣れ というには無理があるような気がする。「どうしたの、ご飯食べないの？」

考え込む僕にそういった彼女の笑顔が怖かった、僕は男として知ってはいけないことを知ってしまったのかもしれない。

(後書き)

はい。

気持ち悪いです。

中学生の頃にこそこそつと書いていたノートから発見しました。
ホラー&ミステリーの才能がなさそうです。

現実がこれだと大変鬱になります。

おんなのひとつて怖いですね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3416u/>

僕に聞こえない声

2011年10月9日08時10分発行